

## 本学介護福祉学科における進路支援の取り組みと今後の課題 — 就職相談会を中心として —

Support and challengers for finding employment and the entrance into a school of higher grade  
in department for training of certified care workers in Matsumoto Junior College  
— Mainly on a conference for finding employment —

齋藤 真木  
Maki SAITO

福田 明  
Akira FUKUDA

岩田 滝彦  
Takahiko IWATA

### 要旨

介護を必要とする人が増加する一方、介護サービスに従事する人材は不足している。本学でも介護職の求人数は多く、希望する者は100%の就職率である。しかし、ここ数年の本学介護福祉学科の学生は、就職先を決めることに関してはのんびりと構えている者が多く、2年生の後期に入っても、自分の意志で就職活動を始めることができない学生もいた。そこで、平成27年度、介護福祉学科と学生部等が連携して、本学で初めて複数の事業所合同の「介護福祉学科・専攻科就職相談会」（以下、就職相談会）を実施する等、進路支援の強化を図ってきた。

本研究は、介護福祉学科の進路支援のさらなる充実のため、第1に学内で初めて開催した就職相談会について振り返り、参加者の意見をもとに今後の実施時期や開催方法等について検討した。第2に介護福祉学科2年生が、いつ、どのように進路を選択し決定したのか、また、学生がどのような支援を必要と考えているのかを調査し、今後の進路支援（特に就職支援）の方向性を明らかにした。

第1については、概ね今年度と同じ時期や形で来年度以降も開催することが望ましく、就職相談会をきっかけに、学生の就職に対する意識が高まり、早い時期からの就職活動につながったことがうかがえた。第2については、学生が「就職相談会」の他にも「面接指導」や「小論文・課題作文指導」「就職活動マナー指導」「履歴書作成指導」等について具体的な支援を望んでいることが明らかとなった。今後、「面接指導」「小論文・課題作文指導」「就職活動マナー指導」「履歴書作成指導」等についても、それらを必要とする学生が必ず受けられる体制整備とその中身の充実に向けて検討し対応していくことが課題としてあげられた。

【キーワード】 進路支援 就職相談会 連携 進路決定 就職内定率

### 1. はじめに

介護現場の人材不足が叫ばれている。例えば、長野県の場合、介護サービスに従事する従業員のうち、介護職員の過不足状況は「適当」が44.7%に対して、「不足」（「大いに不足」+「不足」+「やや不足」）が54.3%と、約半数の事業所が人材不足を感じている結果が明らかになった（平成26年度）<sup>1)</sup>。また、有効求人倍率をみると、長野県全体の平均が1.23倍だったのに対し、介護・福祉関係においては2.40倍と高い水準であった（平成26年度）<sup>2)</sup>。今後も介護を必要とする人が増加する中で、労働需要の高まりに伴う一層の介護・福祉人材の不足が懸念される。

本学介護福祉学科においても介護職の求人数は多い。例えば、長野県内の介護福祉関係の事業所からの求人数をみると、平成25年度は卒業学生数49名に対し105件（求人倍率2.14倍）、平成26年度は卒業学生数76名に対し101件（求人倍率1.33倍）、平成27年度は10月末時点で卒業予定学生数42名

に対し90件（求人倍率2.14倍）となっている（資料提供学生部）。

こうした状況の中、ここ数年の本学介護福祉学科の学生は、就職先を決めることに関してはのんびりと構えている者が多く見受けられ、各年度の11月末での就職希望者の内定率を見てみると、平成25年度が34.8%、平成26年度が38.2%と4割未満という状況であった（資料提供学生部）。その理由の1つとして、過去を振り返ると、2年生の後期に入っても、自分はどのような職場でどのように働きたいのか、ということがイメージできず、自らの意志で就職活動を始めることができない学生がいたことが関係していると思われる。中には、卒業間際になって教員から勧められて、ようやく就職試験を受けたものの、自分には合わない、就職して早々に辞めてしまうこともあった。

その一方で、全体の半数以下の人数ではあったが、公共職業安定所や長野労働局等の主催による「福祉

の職場説明会・就職面接会」等に参加した学生たちは、夏休み中に複数の介護福祉関係の事業所を見学・比較していた。その結果、彼（女）らは納得したうえで就職希望先を決め、就職試験を受け、就職先を決めることができた。「職場説明会」や「就職面接会」に参加したことで、就職に対しての心構えができ、その後の就職活動につながっていったものと思われる。

しかし、「職場説明会」や「就職面接会」は指定された日時に指定された会場のみで開催されることが多いため、普段の授業や実習等で日程が合わなければ、学生が参加したくても、参加できにくい状況にあった。それだけに、筆者らは、こうした限定された条件下ではなく、学生にとって身近な場所で「職場説明会」や「就職面接会」等を開催する必要性を感じていた。

そこで、平成27年度、介護福祉学科と学生部等が連携して、本学で初めて複数の事業所合同の「介護福祉学科・専攻科就職相談会」を開催する等、いくつかの進路支援を展開してきた。

## 2. 目的

本稿では、まず、2つの目的を設定した。第1の目的は、学内で初めて開催した就職相談会について振り返り、参加者の意見をもとに今後の実施時期や開催方法等について検討することである。

第2の目的は、介護福祉学科2年生が、いつ、どのように進路を選択し決定したのか、また、学生がどのような進路支援を必要と考えているのかを調査し、今後の進路支援（特に就職支援）の方向性を明らかにすることである。

## 3. 方法

### 1) 進路支援と就職相談会の概要紹介

まず、平成27年度に行った介護福祉学科2年生に対する進路支援の全体像を把握するため、時間的経過に沿って整理した。次に、学内で初めて開催した就職相談会の概要について示した。なお、これらの作業を行うにあたり、本学学生部から提供された資料も活用した。

### 2) 就職相談会についてのアンケート調査

介護福祉学科2年生42名のうち就職相談会に出席した学生34名（81.0%）に対して、就職相談会終了後にアンケート調査を行った。質問内容は、①就職相談会を当校で開催する必要性について②開催時期について③事業所を何か所回ったか④聞いたかったことを質問できたか⑤就職への理解は深まったか⑥その他（自由記述）とし、無記名のアンケート用紙を配布し、調査目的等を説明して協力を依頼した。

### 3) 介護福祉学科2年生の進路選択・決定とその支援内容に関するアンケート調査

平成27年11月2日、約1か月の介護実習に入る前に、介護福祉学科2年生42名に対して、授業の冒頭でアンケート調査を行った。質問内容は、①卒業後の進路決定の状況について②進路を選択した時期について③進路を選択した理由について④進路選択・決定に向けて、どのような支援が必要だと思いかとし、無記名のアンケート用紙を配布し、調査目的等を説明して協力を依頼した。

### 4) 倫理的配慮

各アンケート調査では、調査目的、調査への協力の有無が個人の成績評価に関係しないこと、個人を特定できないこと、調査結果を統計的に処理すること、本研究以外に使用しないこと、調査責任者について調査票に記載した。同時に、アンケート調査への参加の任意性や調査結果は来年度以降の進路支援に反映させること、調査に関する問い合わせ・苦情の連絡先が調査責任者であることも口頭で説明し、調査票の提出をもって同意が得られたものとした。

## 4. 結果

### 1) 進路支援と就職相談会の全体像

#### (1) 介護福祉学科の進路支援

平成27年度の介護福祉学科における進路支援の流れは表1のとおりである。

表1 平成27年度介護福祉学科の進路支援

月 日	内 容	担 当
4月6日 (前期オリエンテーション)	年間の就職活動についてのガイダンス	学生支援委員
	卒業生による職場相談セミナー 今年度は、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、訪問介護事	介護福祉学科同窓会

7月22日	業所で働く卒業生を招き、事前に2年生に取ったアンケートを基に、それぞれの事業所の特色や仕事の様子、先輩の仕事に対する思い等をうかがい、直接学生からの質問にも答えていただくことができた。	
8月6日	<b>就職活動・進路についての講話</b> 就職への心構え、就職活動とは、求人票の見かた、進学について、履歴書の書き方、採用が決まってから等、具体的な内容で話をしていただいた。 <b>就職相談会についての説明</b>	学生部長  学生部長 学生支援委員
8月8日	<b>介護福祉学科・専攻科就職相談会</b> 概要については後述する。	介護福祉学科 学生部
9月14日 (後期オリエンテーション)	<b>進路希望及び活動状況の調査を実施</b> (2年生・専攻科対象) 各学生の進路希望と現在の活動状況を調査・集約し、学生部と学科の教員の中で情報を共有した。夏休み中の就職活動の様子、就職試験の日程等が把握でき、未だ進路について迷っている学生に対しては、チューターや学生支援委員が相談に乗ることができた。	学生支援委員
11月4日 (介護総合実習直前)	<b>進路状況の確認</b> 学生部で確認できている進路状況の情報資料を学科会で配布し、情報の共有を図るとともに、未だ決定していない学生に対しては、チューターや学生支援委員が面談することができた。	学生支援委員
11月4日以降	学科会等で、折に触れて進路決定状況について、話題にのせ、学生部及び学科全体で支援できる体制をとっている。	

## (2) 就職相談会の概要

本学で初めて実施した就職相談会の概要については表2に示す。

表2 就職相談会の概要

開催日時	平成27年8月8日(土) 13:00~15:00
会場	学生食堂
参加事業所	18社(42名)
参加学生	介護福祉学科2年生 30名 専攻科 4名
開催形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所ごとに1つのブースを設け、食堂のテーブルをはさんで事業所と学生が面接する。</li> <li>・1回の相談時間は30分間で、アナウンスにより一斉に開始・終了する。</li> <li>・学生は開催時間内に、選択したブースを3か所回る事ができる。</li> </ul>
主な役割分担	学生部 開催通知を作成、参加事業所のとりまとめ、会場の配置、参加者(学生・事業所)へのアンケートの作成と集計、当日の進行等

介護福祉学科	開催通知を実習先の事業所に配布、学生に相談先を選択させ相談人数の調整、当日の受付、立札・スリッパ等の準備等
参加した学生	受付、会場への誘導、お茶の配布、会場づくり、会場後片付け等
学校	スクールバスの運行（3往復）、参加事業所へお茶のペットボトル準備等

就職相談会には、介護福祉学科2年生から34名の参加があり、夏休み中から積極的に就職活動をする姿が見られた。さらに、就職相談会参加者の中から9月、10月に就職試験を受けた者が集中した。その結果、平成27年度11月13日時点での介護福祉学科の就職内定率は68.6%（昨年度同時期38.2%）となり、前年度同時期と比較して30.4%ポイント、12月11日時点では71.4%（前年度同時期54.4%）となり、前年度同時期と比較して17.0%ポイント、

それぞれ上昇した。また、平成27年12月11日時点での就職内定者25名中16名（64.0%）が就職相談会に参加した事業所から内定をもらっていた（資料提供学生部）。

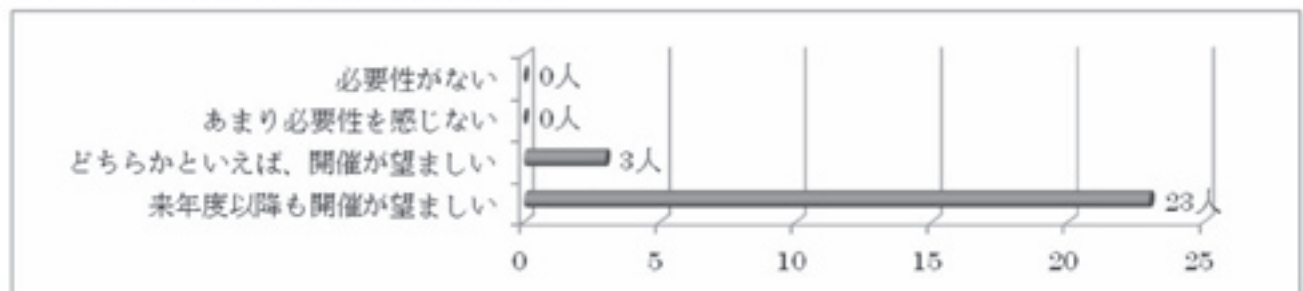
2) 就職相談会についてのアンケート結果

就職相談会に出席した介護福祉学科2年生へのアンケート回収結果は、参加学生34名に対して26名が回答し、回収率は76%であった。この26名の回答結果は以下のとおりである。

(1) 就職相談会を本学で開催することの是非

就職相談会を本学で開催することについては、「ど

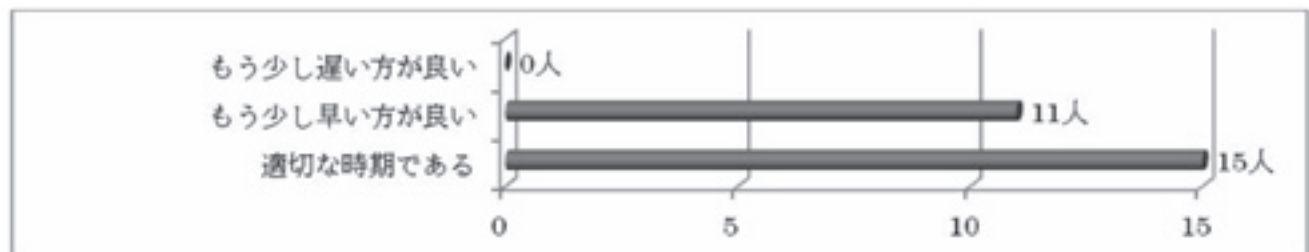
図1 就職相談会を本学で開催することの是非



ちらかといえば開催が望ましい」と「来年度も開催が望ましい」を合わせて26名（100%）であった（図1）。

(2) 開催時期

図2 開催時期

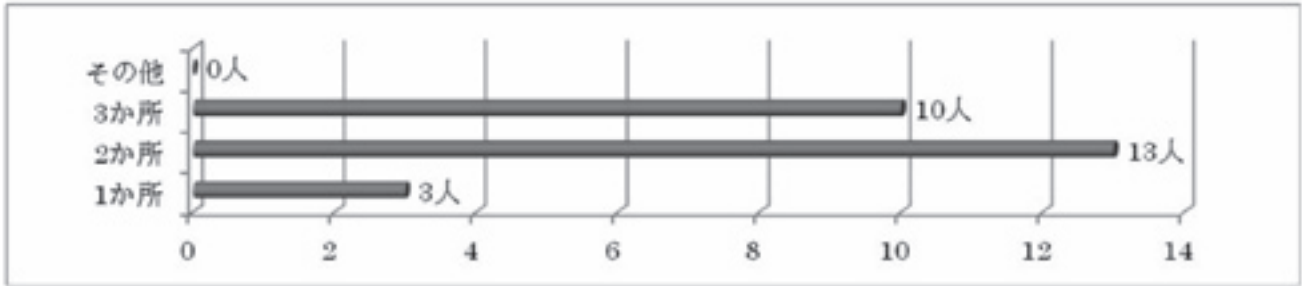


開催時期については、「適切な時期である」が26名中15名（57.7%）、「もう少し早い方がよい」が26名中11名（42.3%）であった（図2）。

(3) 学生が回った事業所数

「事業所を何か所回りましたか」の質問については、「2か所」が最も多く26名中13名（50.0%）、「3か所」が26名中10名（38.5%）、「1か所」が26名中3名（11.5%）であった（図3）。

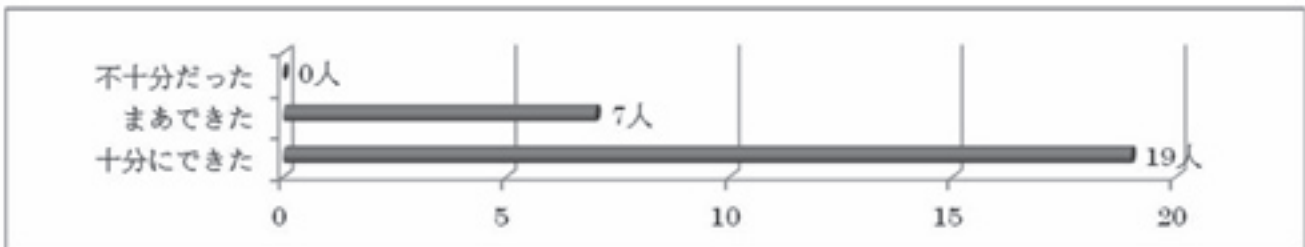
図3 何か所の事業所を回る事ができたか



「聞きたかった内容の質問はできましたか」については、「十分にできた」が26名中19名(73.1%)、「まあまあできた」が26名中7名(26.9%)であった(図4)。

(4) 学生からの質問

図4 聞きたかった内容の質問はできたか

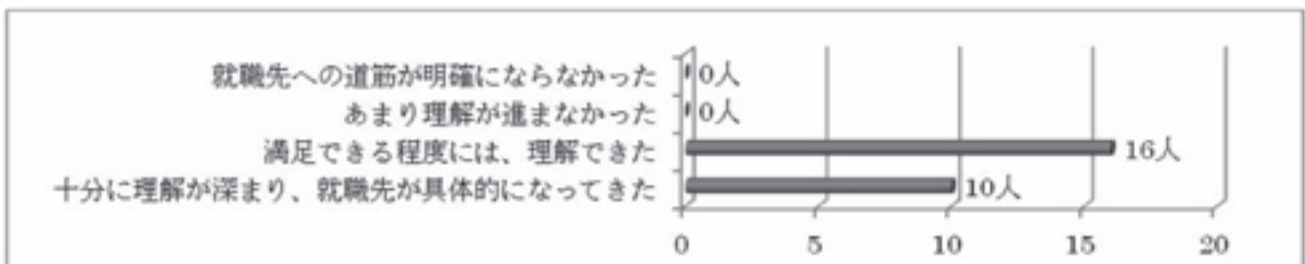


(5) 就職への理解の深まり

「就職への理解は深まりましたか」については、「満足できる程度には理解できた」が26名中16名(61.5%)、「十分に理解が深まり、就職先が具体的

になってきた」が26名中10名(38.5%)であった(図5)。

図5 就職への理解

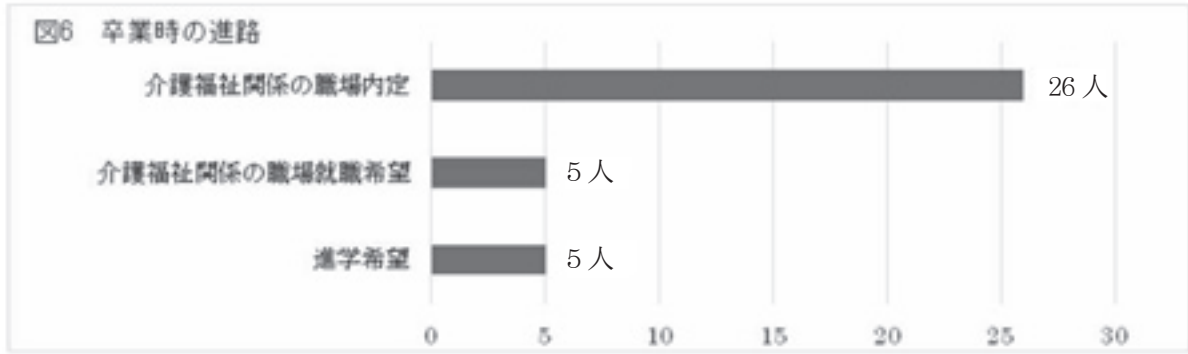


3) 介護福祉学科2年生の進路選択・決定とその支援内容に関するアンケート結果

平成27年11月2日の1時間目の授業に参加した介護福祉学科2年生36名を対象に進路選択・決定とその支援内容に関するアンケート調査を行った(回答率100%)。その結果は、以下のとおりである。

(1) 卒業後の進路

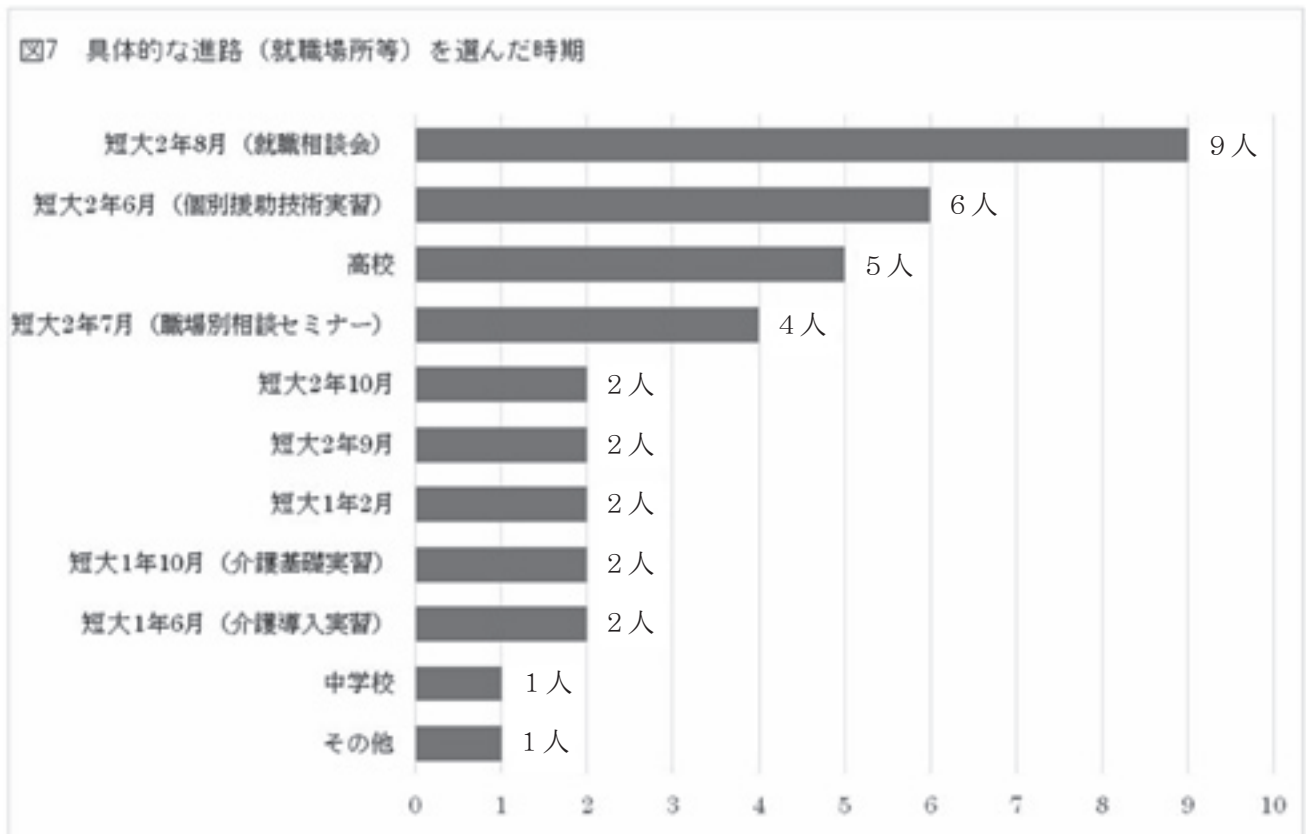
調査時点における介護福祉学科卒業後の進路については、介護福祉関係の職場を希望した31名中26名(83.9%)がすでに内定をもらっていた。一方、本学看護学科等への進学希望者は36名中5名(13.9%)であった(図6)。



### (2) 具体的な進路を選んだ時期

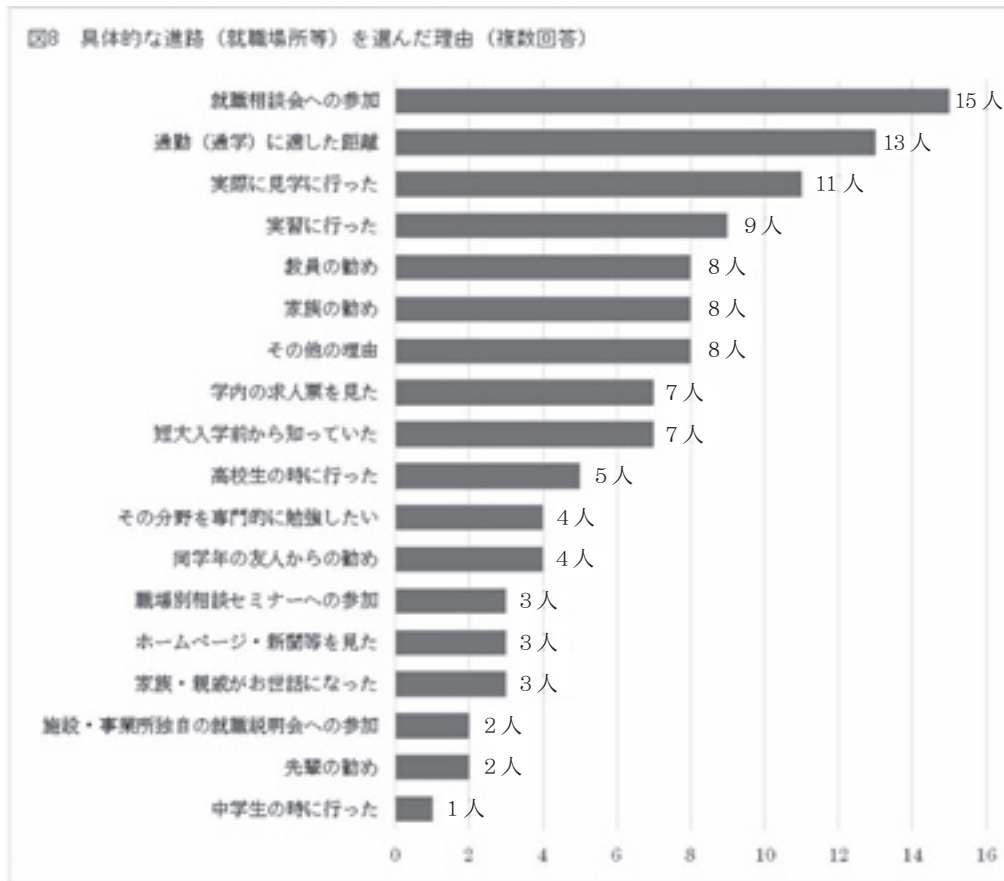
就職場所等の具体的な進路を選んだ時期については、2年次に行われた「就職相談会」（平成27年8月8日）の時が最も多く36名中9名（25.0%）であった。次いで多かったのは、やはり2年次に行われた「個別援助技術実習」（平成27年6月1

日～6月23日：17日間）の時で36名中6名（16.7%）となった。以下、「高校」の時が36名中5名（13.9%）、2年次に行われた「職場別相談セミナー」（平成27年7月22日）の時が36名中4名（11.1%）と続いた（図7）。



### (3) 具体的な進路を選んだ理由

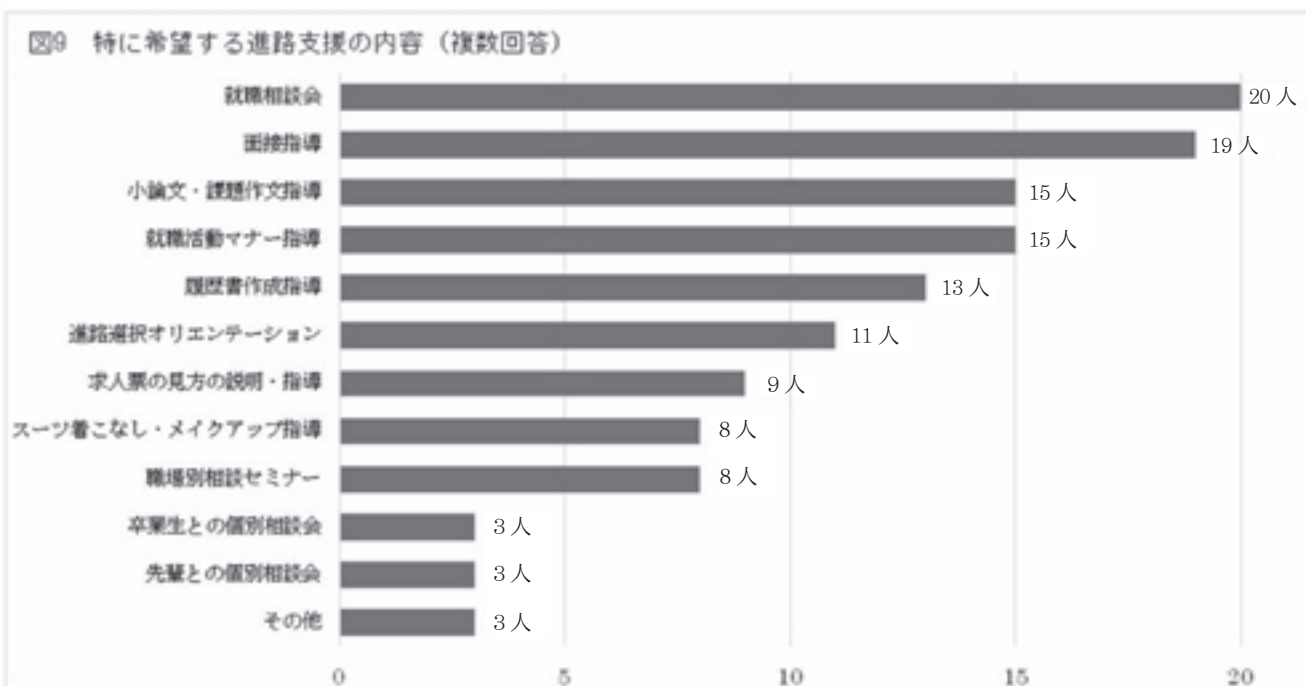
具体的な進路を選んだ理由では、「就職相談会への参加」が36名中15名（41.7%）で最も多かった。以下、「通勤（通学）に適した距離」が36名中13名（36.1%）、「実際に見学に行った」が36名中11名（30.6%）、「実習に行った」が36名中9名（25.0%）と続いた（図8）。



(4) 特に希望する進路支援の内容

「介護福祉学科に入学してから卒業するまでに、どのような進路選択・決定に向けた支援（進路支援）が特に必要だと思いますか」の質問に対して、最も多かった回答は「就職相談会」の36名中20名

(55.6%)であった。次いで多かったのは「面接指導」の36名中19名(52.8%)となった。以下、「小論文・課題作文指導」「就職活動マナー指導」がともに36名中15名(41.7%)、「履歴書作成指導」が36名中13名(36.1%)と続いた(図9)。



## 5. 考察

### 1) 就職相談会について

本学で初めて開催した就職相談会について、ここでは終了後に参加学生を対象に行ったアンケート調査結果を中心に振り返り、今後の開催について考察する。

就職相談会を本学で開催することについては、全員が、学内での開催の必要性を感じていたといえる。地域において指定された日時や会場で行われる「職場説明会」や「就職面接会」には参加しづらかった学生も、学内での開催であれば、前もって友人とどのような内容を相談するのか、どこの事業所をどうやって回るのか等を相談できる等、事前の心構えと準備をして臨むことができたと思われる。

また、会場については、学生が各事業所のブースに移動しやすく、各ブースで落ち着いて相談できることが望ましいと考え、広さやテーブルと椅子がそろっていて配置の自由が利き、さらに学生昇降口に近いく等の理由から学生食堂が適していると判断した。

具体的な開催時期については、学生の意見と参加事業所の意見が一致しており、6月下旬の個別援助技術実習終了後から、夏休み前の8月上旬までの時期が適切と思われる。

このように、「就職説明会」や「就職面接会」等を主催する側の視点や都合からではなく、可能な限り、学生の視点から学生が参加しやすい状況を作ることが大切であると考えられる。

参加事業所の選択と参加数についてはどうだろうか。各事業所との相談会は30分ずつ計3回に分けて行われ、アンケート調査結果から、各ブースで相談した学生の延べ人数が59名であったことが明らかになっている。しかし、アンケート調査に協力しなかった8名が2か所回ったとして計算してみると、実際には延べ75名ほどになり、今回参加した事業所が18か所であったことから1事業所あたり約4.2名が相談したことになる。

ただ実際には、会場の様子を見ると、相談者が集中した所とそうでない所があり、1回の相談人数にはばらつきが生じてしまったと思われる。中には2時間の間に1名か2名しか相談に行かないブースもあったこと等から、今後も参加事業所数としては20か所くらいまでに留め、場合によっては介護福祉学科1年生や他学科学生の参加を促してやる必要があると思われる。

また、今回就職相談会に参加した事業所は、事前に学生部へ問い合わせがあった他県の1社以外は、すべて学生の介護実習先の施設を含む法人等

であった。実習施設は、本学との間で長年の信頼関係ができており、卒業生も多く就職し活躍していることもあり、就職相談会への参加事業所としてはふさわしいと思われる。

開催形式については、全員の学生が聞きたかった内容の質問が「十分できた」「まあまあできた」とし、「就職への理解が深まった」と回答していた。また、会場の様子からは、メモを取りながら真剣に話を聞く学生の姿が見られ、事業所もそれぞれが工夫して熱心に説明をする様子がうかがえたこと等から、概ね今回のような形が良かったのではないかと考えられる。細部については、参加事業所から寄せられた意見等を参考に検討し、来年度以降に反映させていきたい。

就職相談会に関しては、この他に役割分担についても申し添えておきたい。先に、表2の中で示したとおり、今回は、介護福祉学科・学生部・学校の連携によって初めての就職相談会を滞りなく実施することができた。また、当事者である学生有志が役割を担うことで、学生自身の就職に対する意識がさらに高められたと思われる。実際、各事業所からは、そのような学生の姿を見ていただく中で好評を得られた。

### 2) 介護福祉学科2年生の進路選択・決定とその支援内容について

平成27年11月2日に介護福祉学科2年生36名を対象にしたアンケート調査等から、今後の進路支援（特に就職支援）の方向性を明らかにする。

調査時点における介護福祉学科卒業後の進路については、介護福祉関係の職場を希望した学生のうち8割がすでに内定をもらっていた。また、調査に参加した36名中31名が介護福祉関係への就職を希望し、残る5名が進学を希望する等、全員が進路について明確な意思表示をしていたのが今年度の2年生の特徴である。

就職場所等の具体的な進路を選んだ時期については、「2年次に行われた就職相談会の時」が最も多かった。さらに、具体的な進路を選んだ理由についても、「就職相談会への参加」が最も多かった。以上のことから、就職相談会を行ったことが1つの契機となり、学生の就職に対する意識が高まり、早い時期からの就職活動につながったものと思われる。

### 3) 進路支援についての課題

進路支援についての課題としては、以下の2点が明らかになった。

1つ目は、アンケート調査結果の「学生が希望す



る進路支援の内容」からうかがうことができる。最も多かった回答は、やはり「就職相談会」であったが、次いで多かったのは「面接指導」以下、「小論文・課題作文指導」「就職活動マナー指導」が並び、「履歴書作成指導」と続いた。就職相談会を除いたこれらの項目については、これまでも学生の希望に応じて、学生部やチューターの担当教員等が個人的に支援してきたことであったが、一方では、ほとんどそれらの支援を受けずに就職試験を受けた学生もいた。そして実際に就職試験を受けた後に、それらの指導を受ける必要性について身をもって感じるものが多かったのではないかと推察される。

したがって、「面接指導」「小論文・課題作文指導」「就職活動マナー指導」「履歴書作成指導」等について、それらを必要とする学生が必ず受けられる体制整備とその中身の充実に向けて、今後早急に検討し対応していくことが、課題としてあげられる。

2つ目としては、進路支援の年間計画を明確にして関係者間で共有することである。誰が、どの時期に、どのような内容で支援するのかを学生や教員、学生部があらかじめ知っておくことで、それぞれの支援内容につながりができて、より有効で強力な支援が行えるようになる。

例えば、今年度は、卒業生による「職場別相談セミナー」の開催に向けて事前に介護福祉学科2年生に行ったアンケート調査の結果から、学生が職場についてどのようなことを知りたいと思っているのかを抽出し、「学生が聞きたい内容」としてまとめ、あらかじめ就職相談会に参加した事業所に示すことができた。このようなつながりを随所で大切にしながら、支援体制を整えていくことが今後も必要と思われる。

## 6. おわりに

学内で就職相談会を開催することは、昨年度末に学生部長からの提案を受けて始まったことである。そして、今年度、介護福祉学科・学生部・学校の連携により滞りなく開催することができた。さらに、就職相談会がきっかけとなり、今年度の2年生全体の就職に対する意識が高められ、結果として早い時期から進路の決定や就職内定率の上昇につながったことはたいへん喜ばしいことである。

今後も本研究で得られたことを基に、さらに学生の進路支援の充実を図っていきたい。

最後に、本研究にご協力いただきました学生の皆様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 介護労働安定センター「介護労働実態調査」2014年
- 2) 長野労働局発表「長野県有効求人倍率」平成27年7月1日